

19. 令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立上野高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部主幹教諭 1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務担当)、生活指導主任、進路指導主任、総務主任 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者(駿台文庫専務・国立博物館学芸員)2名、PTA 会長、近隣中学校長、近隣自治会代表 2名、地域有識者、同窓会代表、地域警察署関係者（スクールサポーター） 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月20日（木）内部委員7名、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
第2回 令和6年11月21日（木）内部委員7名、協議委員6名
授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 令和7年2月6日（木）内部委員7名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和6年6月20日（木）内部委員3名、協議委員3名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
第2回 令和6年11月21日（木）内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
第3回 令和7年2月6日（木）内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：928人 回収：928人 回収率：99.8%
 - ・12月 保護者全員 対象：928人 回収：875人 回収率：94.4%
 - ・12月 地域・住民 対象：26人 回収：26人 回収率：100%
 - ・12月 教職員 対象：60人 回収：60人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備などの評価項目を、学校実態に合わせて適宜設定する。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ①学校生活の満足度は、生徒はA「そう思う」B「ややそう思う」が8割程度で満足度は高い。
 - ②基礎基本の学力は、保護者の方の評価が全般的に高く、生徒は学年が上がるにつれて高くなっている。教員は、AとBで90%を超えており少しギャップが見られる。
 - ③応用力は、生徒・保護者とも学年が上がるにつれて改善の傾向がある。1年生のC「あまりそう思わない」D「そう思わない」の割合が昨年は45%程度あったが、今年は29%と改善された。教員は②同様AとBで90%を超えておりギャップが見られる。
 - ④生活指導は、保護者の評価は高いが1・2年生徒のC「あまりそうは思わない」は若干高い。教員は他の質問よりはCとDの割合が高いが、AとBは85%を超えておりギャップが見られる。
 - ⑤規範意識は、3年生徒のA「そう思う」が若干高い。他は生徒・保護者・教員ともにだいたい同じ傾向であった。
 - ⑥進路指導は、学年が上がるにつれて上昇傾向にある。1年生のD「そう思わない」の割合が若干高いがほぼ同じ傾向である。1年生の進路活動はキャリア教育的なものが多いので、進路指導と意識していないケースが考えられる。教員は、AとBで昨年は90%を超えていたが、少し下がった。
 - ⑦生徒と保護者の進路の話し合いも学年が上がるにつれて上昇傾向にある。

⑧特別活動の充実度は3年生保護者のE「わからない」の割合が6.6%と高いが、生徒・保護者・教員はほぼ同じ傾向で高評価である。

⑨部活動の充実度はC「あまりそう思わない」の割合が若干増える。生徒のA「そう思う」の割合がかなり高いが、それに比べて保護者はかなり低いことから部活動の充実は保護者に伝わっていないようである。教員は割と保護者と同様の傾向にある。

⑩健康指導や安全指導は生徒がA「そう思う」の割合がかなり高いが、保護者と教員はそこまでは高くなく部活動の充実と同じ傾向にある。

⑪教育相談の窓口については、かなり生徒には周知されている。保護者はE「わからない」の割合が高いが、学年が上がるにつれて改善傾向にある。教育相談に関して保護者への周知をもう少し進める必要がある。

⑫清掃状況については、生徒はA「そう思う」の割合が60%～70%ありかなり高く良好である。その反面、保護者のA「そう思う」は25%程度になっている。教員はA「そう思う」が生徒ほど高くないが、AとBで90%を超えている。

⑬施設設備の活用も⑫と同じ傾向になっている。保護者への質問は「安全な施設や設備になっているか」となっており、生徒への質問と文言に少し違いがあるので、「古い校舎はデメリットである」と感じやすかった可能性がある。

⑭読書習慣の徹底はなかなか難しく、生徒はD「そう思わない」の割合が高い。保護者にも同様な傾向がみられた。教員はAとBで86%となっておりギャップが見られる。

⑮ICT 端末やスマスク端末の活用は、各学年ほぼ同様な傾向がみられた。保護者は生徒ほどではないが低学年の活用が高かった。教員は、AとBで86%と高めに出ており多少のギャップが見られる。

⑯教職員のライフワークバランスについては、計画的な仕事の進め方により、業務の効率化を徹底できている割合は、「そう思う」が20%、「ややそう思う」が43.3%と肯定的な意見が多く改善が見られる。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・「生徒による授業評価」の実施等により生徒の声を聞き、基礎学力だけでなく応用力の育成に注力していくことが課題である。
- ・生活指導は、生徒と教員の乖離が見られる。朝学習の遅刻指導の徹底やSNS利用指導など今後も課題となる問題について、丁寧に生徒に対応する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒・保護者についてのアンケート結果から、ゴミ箱の設置及びトイレの洋式化、保護者会及び面談の回数の増加という要望が多いことがわかる。
- ・新教育課程の中、急速に進む教育のICT化や探究「上野学」を中心とした主体的対話的な学びの推進に対する外部委員からの意見をまとめることができた。
- ・今年度から始まった海外学校間交流推進校指定に伴う国際交流事業について成果を共有し、次年度への課題を明確にした。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・地域の行事等に本校教職員や生徒が積極的に参加して欲しいという要望があることが分かった。
- ・防災訓練等で地域の人材活用を一層推進することが必要である。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員に対してもっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・海外学校間交流推進校指定が始まったこともあり、国際交流・外国語教育を一層充実させていく。
- ・生活指導については、生徒の実態に合わせ、保護者との連携を強化していく。
- ・校内研修会は年3回実施する。

(2) 学習指導

- ・新教育課程が実施されてからの問題点を検証し改善を進める。

(3) 特別活動

- ・地域行事への生徒参加（部活動・有志等）について検討する。

(4) 生活指導

- ・朝学習の遅刻指導・交通安全指導を円滑に実施する。
- ・地域と連携した防災訓練実施について検討する。

(5) 進路指導

- ・探究「上野学」において地域の大学・図書館・博物館等学術施設の利用を促進する。

(6) 健康・安全

- ・コンディショニングレポートの汎用的活用と「いのちを大切にする」教育活動を充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
7	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

- ・委員の意見を参考に、地域と連携した防災訓練実施を行った。また校内で発生した生徒間のトラブルに関して、協議委員のスクールサポーターと連携を強化した。

8 その他

- ・学校評価アンケートの正確性を更に向上させるため、質問内容を含め総合的に検討する。
- ・評価精度を更に向上させるため、学校公開の機会を増加させることを検討する。